

書店のための出版情報紙

Vol.16

BookLink



『夏の匂いがする』(マイクロマガジン社)

page
2-3

著者INTERVIEW

木爾チレンさんに聞く
“夏の少女たちのきらめきをちりばめた”初期作品集

page 4 日経BP
『すごい股関節
柔らかさ・なめらかさ・動かしやすさをつくる』
発売当初から爆発的な動き、実践的な内容に高い評価

page 5 『グレゴリー・ポール海竜事典』(共立出版)
『復興と文化』(第三文明社)
【BookLink PRO】
書店FAXの実態調査スタート

page 6 GIFT BOOK CAMPAIGN
『先輩の本棚』2025
著名人らが選んだ“推し本151冊”
プレゼント企画「本を買って当てよう！」
12月20日スタート

page 7 2024年「書店商談会」レポート!
大商談会(東京)&BOOKEXPO(関西)

page 8 早川書房コミックサイト「ハヤコミ」
老舗出版社が名作小説を漫画化

検索は
「BookLink
メディア」



発行所:株式会社 文化通信社 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-7-2 東京堂錦町ビル3階 TEL:03-5217-7730
e-mail: eigyou@bunkanews.co.jp Web:https://book-link.jp

購読書店
リスト



『夏の匂いがする』(マイクロマガジン社) / 木爾チレンさんに聞く

著者が
語る

“夏の少女たちのきらめきをちりばめた” 文学賞受賞作を収録する初期作品集



写真: 篠部雅貴

2010年に「女による女のためのR-18文学賞」で優秀賞を受賞して以来、少女の痛みに寄り添った作品で多くの若者に支持されてきた作家・木爾チレンさん。12月18日搬入で、活動初期の作品をまとめた短編小説集『夏の匂いがする』が刊行される。本作に込めた思いや、作家として大切にしていること、これから書きたいテーマなどについて話を聞いた。(聞き手: 山口高範・構成: 市川真千子)

四六判 / 248頁
定価1815円

9784867166802

int
er
view
M
A
J
E
R
V
I
E
W

今の感性で発表できることの幸せ

—『夏の匂いがする』は初期の作品集ということですが、書籍として刊行される気持ちをお聞かせください。

収録作『溶けたらしぼんだ』は、14年前にR-18文学賞優秀賞を受賞したデビュー作になります。およそ600作の中から選んでいただいた作品ですし、この頃に書いた作品を私自身すごく好きで、いつか本にしたいという思いがありました。でも書籍にまとめるには5作品ほど書きためる必要があって、当時は作品がポツになることが多く、心が折れて小説を書けなくなった時期もありました。

ただ、初期の頃は今に比べると無駄な文章も多かったのですが、過去の作品を今の感性で改稿して発表できるというのは、結果的に幸運だったと思っています。

—全編にわたり改稿をされたということですが。

作家活動初期の“あるある”かもしれませんが、昔は書き過ぎてしまっていたように思います。比喻を多く使いたがったり、その一文だけでいいのに何か書き足したくなったり。「上手に見られたい」という気持ちもあったからだと思います。でも書き続けているうちに、ストレートな文章のほうが届くときがあるし、脚色する

部分としない部分の書き分け方がわかってきたんです。だから今回の作品も3分の1ほど文章量は削っていますが、印象は変わっていないし、温度感はむしろ上がっていると思います。

『溶けたらしぼんだ』は性をテーマに募集された賞へ向けて書いたもので、性描写が多く含まれており、読んだときに恥ずかしいと思ってほしくない気持ちで改稿しました。過激な性描写はなくつつ良さを失わないようにするのが難しかったのですが、作品の持つ雰囲気や感情は残しながらいい意味で雑味がとれたと感じています。でも改稿前の作品も荒々しくて良いと思うので、読み比べるのも面白いかと。

—本作では各作品についてご自身の思いを綴られています。この構成にした背景を教えてください。

私が少女の頃、漫画家さんが初期短編集で一話ずつコメントを書かれていて、それを読むのがすごく好きだったんです。小説もあとがきがあるものが好きなのですが、一話ずつコメントが付いた小説は見たことがなかったのでやってみたくて思いました。作品の邪魔にはならないように、時間をかけてコメントを考えましたね。やっぱり作者の思いが少しでもわかると、物語からすごく愛を受け取れる気がするんです。私もそうやって、読者の方々と近くなりたいという思いがありました。

最後の『夏の匂いがする』だけは、話の後ではなく前にコメントを入れました。その前の『溶けたらしほんだ』と同じ人物が登場していて連作のような雰囲気なので、それをわかってもらって読んだほうが面白いかなと。やっぱり小説は小説の余韻で終わるのが一番いいのではという気持ちもありました。

生と死、あの世とこの世、友情と恋情

—「生と死」など、相対するものが絶妙なバランスで構成されているのが印象的でした。

生と死を扱うのは、吉本ばなさんの影響が大きいです。生と死をテーマにされている作品が多く、彼女の小説がとても好きなので。私は小さな子どもの頃から「死ってどういうものなんだろう」とよく考えてきました。だから吉本ばなさんの小説に感銘を受けて、自分も同じテーマで書いてみたいと思ったのかもしれないですね。

生と死のバランス感というのは、自分の性格から来ていると思います。若い頃は「死にたい」と「自分、最高!」という気持ちが毎日のように入れ替わっていて、あの世とこの世を行き来しているような心のバランスで生きてきたので、それが小説に反映されているのかなと思います。

—女性同士の友情・恋愛どちらともとれない関係性を書かれています、そのテーマへの思い入れとは?

女の子同士って、私がこの世で一番尊いと思っている関係性なんです。“仲が良い”という言葉ではまとめられなくて、うらやましい、ここがにくらしい、でも一緒にいると楽しい、みたいな、好きと嫌いが混在しているような関係。いろんなことを思いつつも一緒にいるというのが面白くて、男女や男同士にはない、美しい関係性だなと思っています。



扉用に描き下ろされたイラスト。各話の印象的なものをモチーフとしている。
イラスト:有村佳奈



—なぜ「夏」を題材にしたのでしょうか。

私、夏が好きなんです。半袖から風が入ってくる感覚とか、湿気のせいなのか生地のかさめ感とか、夏に着る制服の心地よさをよく覚えています。それに、中学生の時すごく楽しくて、時間が過ぎるのが本当に嫌だったんですよ。でも夏は卒業までまだ時間があったので、自分が永遠にそこに留まれるような、ずっと制服を着て教室にいられるような感覚が好きでした。

お祭りにクラスの男女で行ってドキドキしたり、みんなが開放的になるのもよかったですね。それから打ち上げ花火の匂いや空から降ってくる感じ、儚さ。こんなにきれいなものが世の中に存在するんだって、涙が出るくらい感動します。

少女の感性を失わないように生きる

—過去の作品を振り返り、現在と変わらない点・変わった点を教えてください。

昔も今も一貫しているのは、少女の頃にしか感じられない空気感、痛み、些細な感情の機微を大切に書き続けている点です。私自身、ずっと少女の感性を失わないように生きてきて、それが強みだと思っているので、これからもずっと書き続けていきたいと思います。

変わった点は、昔は自分がいいと思うものを書くことが一番で、独りよがりな文章だったように思います。今は、自分が面白いと思う作品を書きたいのと同じくらい、読者に届いてほしいという気持ちが大きいですね。

—小説を書く上で大切にしていること、これから書きたいテーマについて教えてください。

読みやすさ、ページをどんどんめくらせるリーダビリティが正義だと思っているので、文章の無駄をなくす作業が一番大事にしています。全てを脚色しなくても伝わるし、むしろ多くを書かない余白の美しさを意識

して書いていますね。本を読んだことがないような若い世代でも読みやすい作品にしたいです。

テーマについては、少女の痛みをこれからも書き続けたい。もしかしたら“少女の痛み”から“女性の痛み”へと変わっていくかもしれないですが、やはり女性だからこそわかる心の機微を書いていきたい。そのひとつのテーマを軸として、デスゲームや密室殺人といったエンタメを交えて書いたり、純文学を書いたり、いろんな方面からアプローチしたいです。「今回はこの角度から!?’と感心してもらえるような作家になりたいと思っています。

前作を超える作品を届けたい

—書店員・読者へメッセージをお願いします。

書店員の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。手書きで作ってくださったポップは、一つひとつ見て感動しています。応援していただくことを当たり前と思わず、毎回、前作を超える作品を書いていきたい。今の状況に甘んじない意気込みをいつも持っています。

読者のみなさん、一作一作、違った方面から書きたいと思っていますので、意外性を楽しみにしてもらえたら嬉しいです。

木爾チレン(きな・ちれん)

1987年生まれ、京都府出身。2010年『溶けたらしほんだ。』で新潮社主催「女による女のためのR-18文学賞」優秀賞を受賞。2012年に『静電気と、未夜子の無意識。』(幻冬舎)で単行本デビュー。『みんな蛍を殺したかった』(二見書房)、『二人一組になってください』(双葉社)などヒット作多数。

木爾チレン初期作品集



2024
12/20
発売!!

四六判ハードカバー
定価: 1,815円(本体1,650円+税10%)
ISBN: 978-4-86716-680-2

ずっと私たち二人だけの
美しい世界が続けばいい

『夏の匂いがする』

著: 木爾チレン 写真: 岩倉しおり イラスト: 有村佳奈

恋とも友情とも呼べない、
同性に強く焦がれる気持ちを描いた、
少女たちのひと夏の物語

作品詳細は
こちら



https://kotonohabunko.jp/detail/summemo/

『すごい股関節 柔らかさ・なめらかさ・動かしやすさをつくる』日経BP

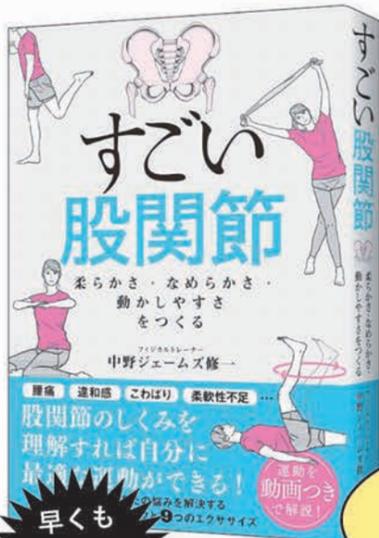
話題書/健康書/家庭医学書 ご担当者様

日経BP

腰痛 脚の違和感 体の硬さ 姿勢の悪さ ……
その不調の原因、「股関節」かもしれません!

すごい股関節

柔らかさ・なめらかさ・動かしやすさをつくる



早くも
6刷!!

テレビ・ラジオで話題沸騰!!

主なパブリシティ・広告予定

- 11/9(土) フジテレビ系 チャンハウス
- 11/20(水) TBS系 それって実際どうなの会
- 12/4(水) TBSラジオ 生島ヒロシのおはよう一直線
- 12/19号 週刊新潮「掲示板」
- 12/23(月) 日経新聞 全5段広告
- 12/30(月) 朝日新聞 (予定)
- 12月中 SNS広告 など続々!!

股関節のしくみを知れば
自分に合った
エクササイズができる!



動画
つきで解説!

オリンピック選手、青山学院大学駅伝チームなど
トップアスリートも信頼するフィジカルトレーナーの
実践メソッドを大公開! 中野ジェームズ修一

番線	書名	注文数
	すごい股関節 柔らかさ・なめらかさ・動かしやすさをつくる 中野ジェームズ修一 978-4-296-20571-4 本体1,600円+税	冊

日経BPマーケティング ご注文は [ブックインタラクティブ \(http://bit.ly/bir_nkbp\)](http://bit.ly/bir_nkbp)
または、FAX(048-421-3271) まで

Message



日経ビジネス副編集長
竹内靖朗

広くて深い知見に裏付けられた股関節の本

日本を代表するフィジカルトレーナーである中野ジェームズ修一さんが、人体で最も重要な関節である「股関節」について徹底的に掘り下げました。

歳をとると股関節の不調を訴える人が増えてきますが、若い人でもスポーツをしていると股関節を傷めることがあります。その人の状態を見極めて股関節を良くするのは、並のトレーナーでも難しく、経験と知識が必要です。本書は、**複雑ですばらしい構造を持つ股関節について、予備知識がなくても分かるように解説。しくみを理解した上で、自分の股関節を良くする運動に取り組み**るようになっていきます。

運動が苦手という人でもストレッチやトレーニングに取り組みよう、著者自身が実演する動画を用意しました。腰痛や体の硬さ、姿勢の悪さなどの対策もできる一冊です。

四六判 / 228頁 /
定価1760円(税込)



9784296205714

Report

発売当初から爆発的な動き、実践的な内容に高い評価

本書は図解やイラストだけでなく、動画でエクササイズを紹介するなど分かりやすく実践的な内容。なぜ不具合が起こるのか、どの部位に問題があるのかなど、筋肉や骨格の詳しいメカニズムまで解説している点も説得力がある。10月に初版8,000部で発刊し、『すごい股関節』という直球のタイトルが、少しでも股関節が気になる人の興味をひいた。さらに、11月にテレビ番組で取り上げられたのをきっかけに売れ行きは3倍近くにまで急伸。12月5日現在で6刷36,000部、年内には40,000部を超える見通しという。

トップアスリートのフィジカルトレーナーとして知られる著者の中野ジェームズ修一さんは、経験から「体の要となる股関節がスムーズに機能することがいかに重要か」を強く意識してきた。健康のためにも複雑な関節のすばらしさ・面白さをもっと知ってほしいという思いを持っていたようだ。

加齢とともに腰や脚に違和感を覚えている人は少なくなく、50代以上が購入者の中心だが、読者の半数以上を占める女性では20代~80代と幅広い年齢層から支持されている。

今後、同社としては全国紙への広告出稿のほか、動画を使ったSNS広告も予定し、さらに交通広告や地方紙への出稿などで販売の後押しを検討している。



サイネージ広告

『グレゴリー・ポール海竜事典』(共立出版)

12/25 発売! 恐竜・翼竜・海竜三部作ついに完結!

グレゴリー・ポール
海竜事典

Gregory S. Paul 著 / 藤一 監訳
藤一・今井邦雄・河部社一郎・奥田正輝・藤原和紀 訳

435種の海竜の骨格図と復元図を掲載!
海竜の生物学的特徴に関する詳細な解説。稀少価値が極めて高い海竜学術書!

『恐竜事典』『翼竜事典』と併売をお願いします!

映画『ジュラシック・パーク』のコンサルタントも務めたアメリカの著名な恐竜専門家グレゴリー・ポールによる、精密な骨格図と復元図を多数掲載!

福井県立大学恐竜学研究所・福井県立恐竜博物館 翻訳協力

グレゴリー・ポール 恐竜事典
グレゴリー・ポール 翼竜事典

ご注文は FAX 03-3947-2539 共立出版 営業部まで

書籍印	グレゴリー・ポール海竜事典 <12月25日発売> 定価7,150円(税込) ISBN978-4-320-04742-6
	グレゴリー・ポール恐竜事典 原書第2版 定価8,250円(税込) ISBN978-4-320-04738-9
	グレゴリー・ポール翼竜事典 <2024年5月発売> 定価6,600円(税込) ISBN978-4-320-04740-2

共立出版 営業部 TEL.03-3947-9960(直通)

Message

恐竜、翼竜、海竜三部作完結! 三作まとめて併売を

映画『ジュラシック・パーク』のコンサルタントも務めた、アメリカの著名な恐竜専門家グレゴリー・ポールの三部作がついに完結! 最後を飾るのは『グレゴリー・ポール海竜事典』です。

前作『恐竜事典』『翼竜事典』と同様、精密な骨格図と復元図が多数掲載され、恐竜750種・翼竜115種・海竜435種と、三巻合計で1,300種にものぼります。恐竜にロマンを感じる方から専門的な内容を研究したい方まで、幅広く堪能できる魅力満載の事典です。

B5判/264頁/定価7150円
※12月25日発売



9784320047426

『復興と文化』(第三文明社)

聖教新聞「復興と文化」取材班

常態化する
災害社会の
なかで

「聖教新聞」連載の「復興と文化」等に登場した識者の声を書籍化

第三文明社

「復興」理念の歴史的検証から震災と障害者、グリーフケア、ボランティア社会の実現まで多岐にわたり論じた。

Message

災害大国日本が、その経験と英知を活かす手立てがここにある

各界を代表する識者から、災害からの「地域の再生」「復興」という大きな課題に取り組むための新たな視点や具体的な方策を探る。

「復興」理念の歴史的検証から震災と障害者、グリーフケア、ボランティア社会の実現まで多岐にわたり論じた。

「聖教新聞」の好評連載「復興と文化」等に登場した識者の声を書籍化。作家・石牟礼道子の「聖教新聞」未収録分インタビューを加えた原稿や、ノンフィクション作家・柳田邦男の独占インタビューを掲載。

四六判/272頁/定価1980円
※12月18日発売予定



9784476034301

デジタルチラシ配信サービス「BookLink PRO」
「書店に対する FAX 営業」実態調査スタート



文化通信社は12月上旬から書店に対するFAX営業の実態調査を開始した。調査対象はデジタルチラシ配信サービス「BookLink PRO」を利用する書店約1300店舗。また、今回の調査を機に未登録店舗に新規登録を促していく。

書店に回答してもらったFAX受信状況は、ニュースサイトで一覧リストを公開し、出版社にフィードバックする。書店のFAX受信状況を出版社に伝えることで、実態に沿った販促情報の届け方を模索し、書店と出版社のコミュニティツールとして「BookLink PRO」の役割を高める。

出版業界に根付いてしまった FAX文化、デジタル化を進めるには

FAXを使った販促活動は出版業界に根付いているが、一方で紙代やインク代の経費削減を目的にFAXを取り外す動きもある。

文化通信社が書店法人と共同で実施した「出版社へのFAX削減要請」では、賛同書店が33法人、1700店舗を超えるまでに拡大した(2024年6月時点)。多くの出版社が注文書や新刊案内などを同報FAXで送っていることから、書店は大量のFAXを受信してい

る。用紙やトナーの消費が多く、FAXを仕分ける作業に追われてきた。

また、6月27日に行われた文化通信社セミナー「書店からみて有効な出版社の販促方法とは」で、講師を務めた紀伊國屋書店・葛城伸一氏は、FAXの注文書について送受信量が多大で紙の消費が膨大という問題点をあげ、同書店のFAX用紙費用が年間600万円に上るとの試算を述べている。



会員書店向けにはメールマガジンでも案内を行う

GIFT
BOOK
CAMPAIGN『先輩の本棚』2025
著名人らが選んだ“押し本151冊”

株式会社文化通信社は「本を贈る」文化の定着を目指し、5回目のギフトブックキャンペーンを実施する。

12月20日刊行のギフトブックカタログ『先輩の本棚』2025では、高校の卒業生や成人を迎える若者に向けて、さまざまな分野で活躍する著名人などが選んだ本を紹介。人生の先輩たちが選んだ“若者に贈りたい本”計151冊の書影(本の表紙)とコメントを掲載している。

このほかにも、本に関わるプロフェッショナルへのインタビューや寄稿、書店ルポなどの特集企画が満載。読書の楽しさを広める、深める1冊となっている。

協賛企業や自治体の協力を得て、東京都の都立高校全卒業生(約4万人)をはじめ、首都圏を中心とした高校3年生「二十歳のつどい」に出席する若者への配布のほか、書店店頭や公共図書館、大学、企業などで計15万部を配布する。

内容

- ①巻頭メッセージ「人を育てる本の力」 公益財団法人文字・活字文化推進機構理事長 山口寿一氏 ②47名の著名人と書店員・図書館員各5名が選ぶ151冊を掲載 ③インタビュー タレントイモトアヤコ氏/サンクチュアリ出版・橋本圭右編集長 ④Report 東京のイケてる書店 ⑤Report 英国の素敵な書店 ⑥Report 講談社 ⑦2024年文学賞受賞作品
□体裁=B5判、88ページ、発行部数=15万部、発売日=2024年12月20日

選書を担当した著名人(五十音順・敬称略)

阿刀田高/池坊専好/伊沢拓司/石坂浩二/イモトアヤコ/内館牧子/内原智史/浦上博史/大塚朝之/岡崎裕子/小川後楽/翁百合/加来耕三/梶田真章/金子柱憲/川村元気/国谷裕子/小池百合子/小泉武夫/小林一俊/小林浩美/金剛永謹/三枝成彰/重森千青/茂山あきら/紫舟/正田隆/末松弥奈子/田中昭徳/團紀彦/遠山正道/徳川家広/友利新/中村孝則/野本弘文/幅允孝/平井伯昌/平野ノラ/南美希子/宮内義彦/ミロコマチコ/茂木健一郎/茂木友三郎/盛田淳夫/諸田玲子/横川正紀/渡辺裕太

お問い合わせ先

株式会社文化通信社『先輩の本棚』2025事務局
担当:事業企画室 原裕司/山口晃代/櫻井俊宏/志垣泰生
メール: info@giftbooks.jp 電話:03-5217-7730(代)

公式
サイトは
こちら

GIFT
BOOK
CAMPAIGNプレゼント企画「本を買って当てよう！」
12月20日スタート

文化通信社は12月20日から、抽選で食品、飲料、雑貨、図書カードなどが当たるプレゼント企画「本を買って当てよう!」を開催する。ネット書店を含む全国の書店が発行した1000円(税込)以上のレシートでキャンペーンに応募できる。

書店のレシートであれば、文房具など本以外が含まれても応募可能。2025年3月14日まで応募を受け付けている。

キャンペーンに込めた想い

書店は、日本の文化、日本人の教養、人間力といったものと深く結びついている産業です。また、街中にある書店は、地域住民にとって多様なコンテンツに触れることができる場として親しまれ、創造性が育まれる文化創造基盤として機能してきました。

創業から78年間、出版・書店業界とともに進んできた文化通信社は「活字文化をひらく」をスローガンに、出版業界・書店業界の活性化につとめています。この企画を通して、多くの方が書店を訪れ、活字に触れ、書店が活性化していく社会をめざします。

企画概要

キャンペーン名称:「本を買って当てよう!」
実施期間:2024年12月20日~2025年3月14日/協賛企業数:24社/当選総本数:1255本
当選確定・発送:2025年4月(当選は発送をもってかえす)

お問い合わせ先

株式会社文化通信社「本を買って当てよう!」事務局
担当:事業企画室 原裕司/山口晃代/櫻井俊宏/志垣泰生
メール: info@giftbooks.jp 電話:03-5217-7730(代)

特設サイトは
12月20日
オープン!!



GIFT BOOK CAMPAIGN
本を買って当てよう!
全国の書店で1,000円以上お買い上げの方に
素敵なプレゼントが当たるチャンス。

1,000円以上のレシートで1回、期間中何度でも応募できます。
応募期間 ~2025年3月14日



第13回「書店大商談会」が10月30日、東京・千代田区の科学技術館で開かれた。出版社などが161ブースに出展し、書店290人、出版社731人が来場した。取次会社などを加えた来場者の総計は1116人。次回の参加を検討するため、出版社の見学者などが来場し、業界関係者で賑わった。

書店大商談会は2010年に第1回が開かれて以降は毎年開催されていたが、コロナ禍で20年と21年は中止。22年

は縮小開催、23年は説明会のみが行われ、今年は5年ぶりに大型会場での開催となった。

朝礼で矢幡秀治実行委員長(日本書店商業組合連合会会長、真光書店)は「最近を取次による見計らい配本が減り指定配本が増えている。それは良いことではあるが、書店が良書と出会う機会が減るという面もある。今日は書店がそういうことを意識して回ると思うので、多くの良書を紹介してほしい」と述べた。

大商談会(東京)

第13回「大商談会」 5年ぶりに大型会場で開催

2024年「書店商談会」レポート!

BOOK EXPO 2024 「よし、乗り越えろ!書店人」

BOOKEXPO(関西)



「BOOK EXPO 2024」が11月12日、大阪・北区のグランフロント大阪で開催された。今年は「よし、乗り越えろ!書店人」をテーマに、一般書、コミック、児童書、第三商材など209社(220ブース)が出展した。書店564人、出展社585人、取次会社などを加えた来場者の総計は1272人。商談成立金額は6692万2362円、商談件数は5882件だった。

恒例の「西日本POP王決定戦」は304作品の応募があり、オープニングセレモニーで金賞をはじめとする受賞書店を表彰した。選考した実行委員会

は「年々、レベルが向上している。選ぶのにとっても苦労した」と今年も秀作ぞろいだったという。

セレモニーで大垣全央実行委員長(大垣書店)は「皆さんのおかげで12回目を迎えることができた」と謝意を示し、出展者に向けて「これまで商品の力でお客さんが書店に来ていたが、これからは書店自らが魅力的な店、地域のコミュニティの場となっていかなければならない。今日はそのための情報提供、いろいろなアイデアを書店に教えてほしい」と呼びかけた。

早川書房コミックサイト「ハヤコミ」 老舗出版社が名作小説を漫画化

早川書房は7月23日、コミックサイト「ハヤコミ」をスタートした。国内小説のコミカライズでは逢坂冬馬『同志少女よ、敵を撃て』、海外ミステリ・SFの名作からはアガサ・クリスティー『そして誰もいなくなった』やスタニスワフ・レム『ソラリス』などの連載が始まり、国内外で大きな注目を集めている。コミック事業の立ち上げについてハヤコミ編集長の吉田智宏氏から話を聞いた。(鷲尾 昂)



吉田氏(ハヤコミ編集長兼書籍編集部 主任)

原作小説の魅力を引き出し 国内・海外でコンテンツを広げる

——コミックサイト「ハヤコミ」を立ち上げた理由を教えてください。

コミック事業を始めたきっかけは、大きく二つあります。

まずコミカライズされた漫画媒体には、原作小説の魅力を引き出し、新しい読者に伝える効果が期待できます。

創業79年の早川書房はSF・ミステリ名作を出版してきた老舗の出版社ですが、漫画分野では後発です。最近では漫画作品をインターネット上に公開し、読者を獲得する電子出版サービスが広がっています。以前から「原作小説を生かすための漫画作り」を事業の核として、コミック媒体立ち上げの会議を重ねてきました。

そうした背景もあり、今回リリースしたコミックサイト「ハヤコミ」は早川書房の原作小説を読んでもらう入り口と位置付けています。

また、もう一つのきっかけは、海外での需要に応えることです。海外読者に良質なコンテンツを届けるために、漫画は大きな強みになります。

早川書房は海外との版權売買が活発で、取引先から「漫画をやらないのですか?」という声がありました。日本の漫画は海外で深く浸透していて、世界の共通言語となりつつあります。早川書房はたくさんのコンテンツを持ってしながら、漫画という形で海外読者にアプローチができていませんでした。

国内と海外、双方の市場で早川書房のコンテンツを広げるために「ハヤコミ」がスタートしました。

——コミック事業の構想はいつ頃から始まったのですか。

本格的な動きは4~5年前からです。ただ、それ以前にも企画案は何度も上がっていました。コミック事業の構想は十数年前からあったのですが、当時はまだ紙媒体が主流で、今ほど電子出版が普及していませんでした。

採算性の面から足踏み状態でしたが、電子出版のコミックサイトであれば、十分に見込みが立つと判断し、コミック事業がスタートしました。

サイトの構築ではコミチのマンガSaaS「コミチ+」を導入しています。共通のログインボーナスが入る機能があり、有名なコ

ミック出版社のマンガ読者がボーナスポイントで「ハヤコミ」に入って来てくれます。コスト面からも紙の週刊誌・月刊誌を必要としない電子出版サービスの役割は大きいのです。

強みはレジェンド作品の コミカライズ

——「ハヤコミ」の特色や強みを教えてください。

なんといっても早川書房には海外展開の強みがあります。あくまで目標ですが、刊行した全コミックスを海外に輸出していきたいです。最初のマーケットとして日本の漫画市場、さらに海外市場という二つのマーケットを意識したプロモーションをかけています。

また、「ミステリの女王」として有名なアガサ・クリスティー作品やSF作家スタニスワフ・レムの『ソラリス』など名作の版權取得は、早川書房のような海外との繋がりが深い歴史ある出版社に有利となります。

ミステリとSFの二枚看板を生かし、レジェンド作品のコミカライズを展開できるのが「ハヤコミ」の大きな優位性です。

——実際に初めてみて海外市場からの反応はどうでしたか。

アガサ・クリスティーのコミカライズはすでに7カ国で版權が売れました。英語圏だけでなく、フランス、中国、ブラジルなどで売れています。

——吉田編集長は小説編集部の主任も兼任されていますが、これまでの経歴を教えてください。

早川書房に入社した1999年は翻訳部署の所属でしたが、その後日本人作家の担当に移動し、雑誌『ミステリマガジン』の編集も兼任するようになりました。

その間に、アンソロジーやシリーズの漫画を編集する機会があり、当時から漫画

に対する思いは強く抱えていました。早川書房としても、個人としても、今回のコミック事業の立ち上げは悲願でした。

——コミック事業の体制はどうなっていますか。

事業体の中核は私を含む2人です。私がコミックの編集管理を担当し、もう1人が海外版權の担当です。海外との版權交渉だけでなく、海外原作のコミカライズでは権利者への許可取りもしてもらっています。

もちろん、2人だけで全ての業務をこなしているわけではありません。実務の部分では編集プロダクションの多大な御協力や、原作小説の編集担当者にコミカライズの内容確認など、部署横断で推進しています。

ファンとコミュニティに 寄り添いながら

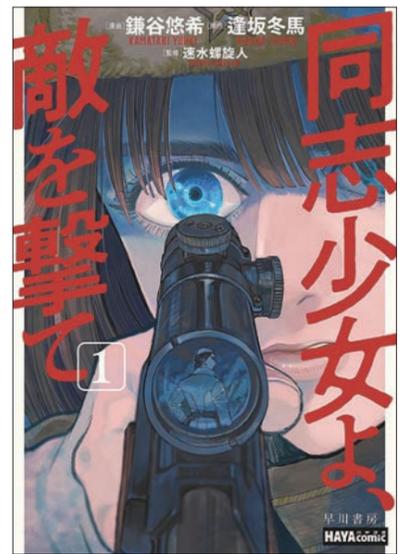
——読者からの反響について教えてください。

「ハヤコミ」を始めたことで、これまで縁がなかった漫画家さんがX(旧Twitter)で「早川書房のこの作品を漫画化してみたい!」と反応したり、国内だけでなく海外の読者も興味を抱いてくれているようです。

また、展示即売会イベントのコミティアに出展した際は、「原作のファンなので、ぜひコミカライズをしたい」とわざわざブースを訪ねてくれた漫画家の先生もいました。

こちらから漫画家にコミカライズを打診するケースが多く、一步一步を地道に進みながら、今のコミュニティを育てていく方針です。

すでにジャンルを確立しているリイド社のWebコミック誌「トーチ」、マガジンハウス



『同志少女よ、敵を撃て 1』(ハヤコミ・コミックス)
原作:逢坂冬馬
漫画:鎌谷悠希/監修:速水螺旋人
発売:2024年12月11日

のWebマンガメディア「シュロ(SHURO)」を目標にして、競うのではなくオンリーワンの漫画作品を世に送り出していきます。

——国内原作のコミカライズで一番強い作品を教えてください。

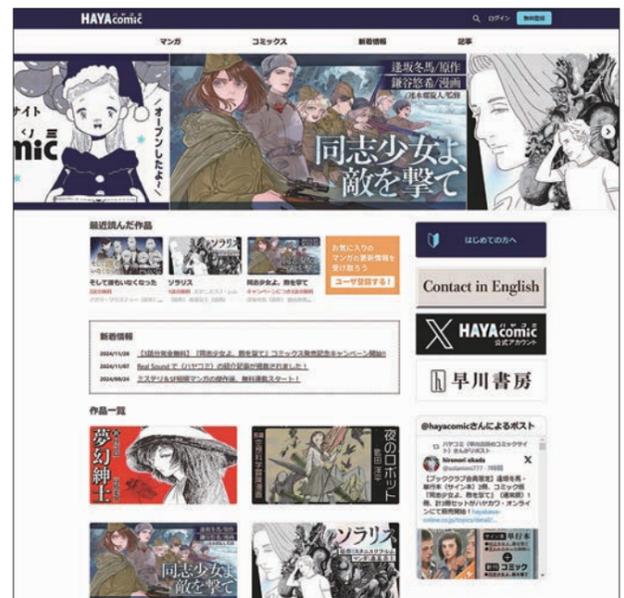
2022年に本屋大賞を受賞した『同志少女よ、敵を撃て』(原作:逢坂冬馬)のコミカライズですね。「ハヤコミ」で一番PVの高い人気作品です。メディアから著者・鎌谷悠希氏への取材依頼、読者からは単行本化がいつになるかなど、問い合わせが多く寄せられています。

現状はコミカライズが中心となっていますが、今後は大ヒットした作品だけでなく、プロモーションの一環として、新人作家さんの小説をコミカライズした作品も発表できる場所にしていきたいですね。

——ありがとうございました。



アクセスは
こちらから



コミックサイト「ハヤコミ」